

第4回町民検討委員会 ワークショップ 結果報告書



別海町

目的

2009年度（平成21年度）に策定された第6次別海町総合計画が、2018年度（平成30年度）をもって終期を迎えます。

総合計画とは、別海町が目指すべき将来像を、10年先を見据えて総合的に策定するものであり、その策定に住民の意見は欠かせません。

本ワークショップは、新たな総合計画を策定するにあたり、住民の方々のご意見を広く反映すべく、全5回を開催するものです。

第4回となる今回のワークショップでは、「子育て」、「教育」、「生涯学習」、「芸術、スポーツ」の4つの分野について、現状の課題とこれからの別海町が目指す姿の意見交換を行い、ワークショップでの住民の方々のご意見の中から、新たに策定する別海町総合計画にふさわしい意見を選考し、反映させていただきます。

また、このような話し合いを通して、まちづくりへの興味・関心の醸成、協働によるまちづくりにつながれば幸いです。

概要

- 日 時：平成30年7月18日（水） 19：00～20：30
- 場 所：別海町役場庁舎1階 101・102号会議室
- 対 象：第7次別海町総合計画町民検討委員
- 主 催：別海町役場 総務部 総合政策課
- グループ：3グループ（A班5名、B班6名、C班6名）
- テ ー マ：人を育む別海町

当日のスケジュール

開会あいさつ (19:00~19:05)

ワークショップのやり方とルール説明
(19:05~19:10)

ワークショップ討議
「人を育む別海町」
ディスカッション (19:10~19:40)

休憩 (19:40~19:45)

ワークショップ討議
「人を育む別海町」
ディスカッション (19:45~20:15)

各グループ発表 (20:15~20:25)

まとめ・閉会 (20:25~20:30)

A班

現状や実体験



理想の想像



市民ができること行政がすべきこと



A班のまとめ

子育てと教育を中心に議論を行ったが、労働時間と学習時間のギャップがあるのではないかと、子育てがしやすい環境づくりが必要だという意見が出ていた。

酪農の場合は、女性も朝早くから夜遅くまで搾乳の時間があるため、塾などへの送り迎えなどの子育ての時間が取れない。そのため、子どもは自宅で勉強することになるので、子どもたちが自宅留守番をしている間に宿題や勉強などができるように、インターネット上で子どもがどこでも勉強できる環境を整えることが必要であるという意見が出ていた。

B班

現状や実体験

子育て

中学生まで医療費無料

育児ができる従業員の向け

牛舎まで子どもを連れていく

新規就農者には、おじいちゃん、おばあちゃんが少ない、いない

託児所が必要
空き家を利用

託児所の管理

行政・農業団体の介入

教育

農家は塾に通わせられない

インターネットで学習したいが、回線が弱い

生涯学習

遠方の人が利用しやすい施設づくり

生涯学習センターの情報発信

地域センターに管理人がいない

理想の想像

子育て

誰が運営する保育所

意見を言う環境づくり

後継者リーダーをつくる

リーダーとなる人材の育成

教育

町内で学校を選べる自由があれば良い

施設と人があれば問題なく進む

コミュニティスクール、コミュニケーション、人とどう接するのか

市民ができること行政がすべきこと

子育て

定員増
保育

必要なときに呼べる
保育士
行政がやる

教育

学区を変えて、環境を変えてあげる

部活動の指導をボランティアで

生涯学習

建物だけではだめ、人がいないと

生涯学習センター指定管理するときはサービスの低下がないように

文化サークルでもリーダーが積極的に声かけする

生涯学習センターとは何、アナウンスの仕方、PR、広報

公民館の魅力ある講座を発信する

サークル、クラブ活動に対する道具等の助成（行政）

トレーニングの指導者が必要

芸術、スポーツ

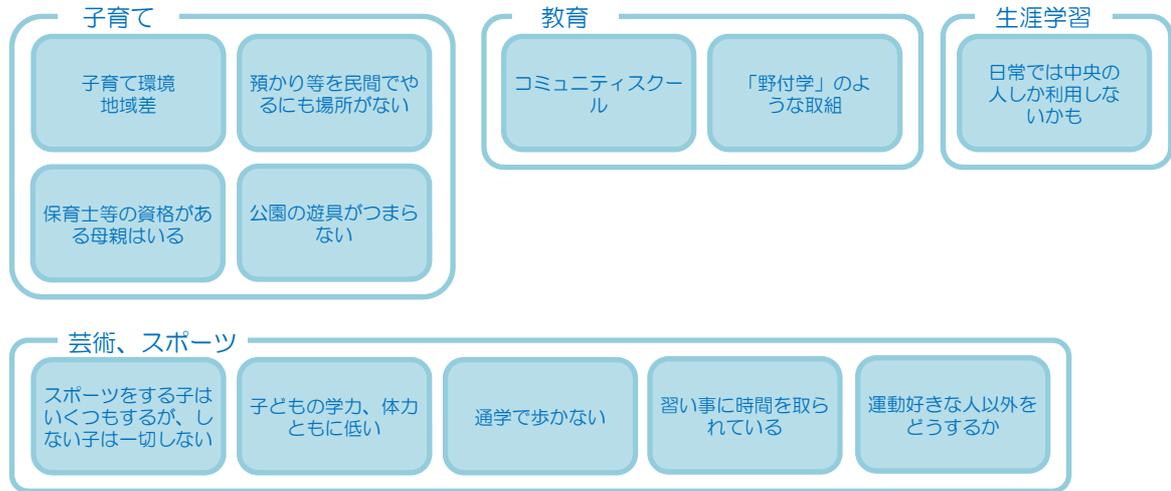
スポーツ指導者の確保、窓口になる、ボランティアで

B班のまとめ

主に教育に関して、議論を行った。農家の子どもたちは学校から帰ってくると、外に出ないことが多いので、インターネット上での学習環境を整えたり、地域の中で公民館などの場所を利用した学習の場をつくり、個人で勉強したり、先生や保護者が交代で顔を出すような、学習環境を増やしていければいいのではないかと意見が挙がっていた。

C班

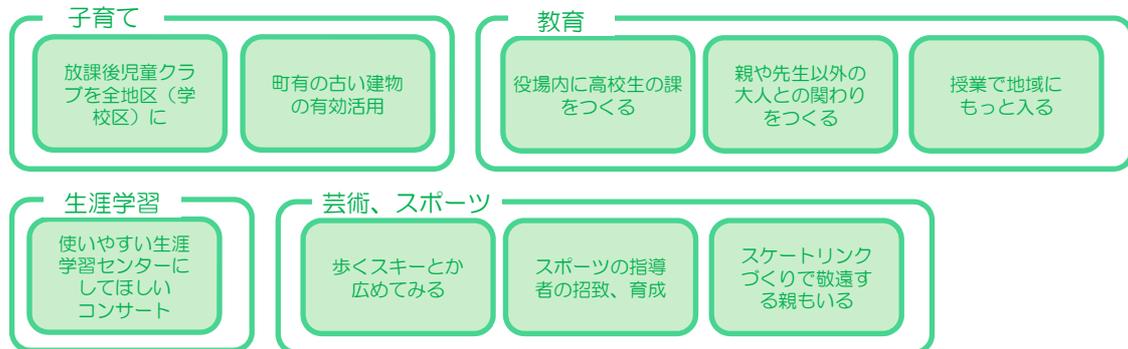
現状や実体験



理想の想像



市民ができること行政がすべきこと



C班のまとめ

子育てや教育を中心に議論を行った。コミュニティスクールや尾岱沼の「野付学」のような取組を取り入れ、地域の教育を行うことで、自分の町に興味を持たせて、町から人を出さない、出ても戻ってくるような愛郷心を育てる教育をするとよいのではないかと。高校に地元出身の先生がいたり、地元の人が外部講師として授業や部活の手伝いを行う取組を強化したり、役場の中に高校生が町について考える課をつくとよいのではないかとという意見も挙がっていた。

別海町は広く、子育て環境にも地域差があり、放課後児童クラブがない学校区もあるので、行政でも民間でもよいが、全学校区につくってほしい。また、大人も子どももスポーツをやらない人はまったくやらない。子どもに関しては、せめて通学は徒歩にして、遅刻してもよいので歩かせるべきだという意見が出ていた。